

# 目銀所長のあさひかわ楽

20

このコラムも二十回目となりました。月一度とはいえず、当初は、本当に連載を続けていけるのだろうか（ネタが続くだろうかと心配しましたが、何とか継続できたのも読者の皆さまのおかげです。

## どうもありがとう

対する感謝を寄せて下さった方もいました。喫茶店でたまたま読んで、是非助言を請いたいと言っ、突然乗り込んできた若者もいました。こうした反応が、何よりも継続の原動力となりました。毎回、市民の皆さんの顔を思い浮かべながら、私なりの旭川を、紙面を通じて描いてきました。読者の皆さまに心から感謝を申し上げたいと思えます。

と書きましたのも、本号が私にとって最後のコラムとなるからです。このコラムは、私が日銀旭川事務所長として在職している間に限り執筆させていただきます。という思いは、終始

り、その私に、転勤の発令が出たためです。私は、本店（東京日本橋）情報サービス局において、海外向け広報の仕事を統括することになりました。旭川には本店調査統計局から荒木光二郎新所長が兼任します。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

ふり返れば、平成十九年七月から三年三カ月、公私ともにとても充実した旭川生活を送ることができました。紙面でも書きましたとおり、「旭川にはとても優れた素材がたくさんあり、それらを磨き、横の連携を深めていけば必ずや展望は開ける」という思いは、終始

変わることはありませんでした。バラエティーに富む産業構造で、堂々とした地方中核都市だと思っております。このコラムではその時々いろいろなテーマをとりあげてきましたが、一貫して訴えてきたものは、字面のより深いところを流れているものは「よそ者」と思っています。

（終）

開村百二十周年を迎え、（日本銀行旭川事務所長）

尾家啓之（おいえひるゆき）一九五八年（昭和三十三年）東京都生まれ、八一年（同五十八年）日本銀行に入行、米国ワシントンでの勤務や、橋本内閣の行政改革会議事務局への出向、総務人事企画役などを経て、〇七年（平成十九年）から旭川事務所長。趣味は音楽全般、ミュージカル鑑賞、社交ダンス。